

長泉寺

〒700-0807
岡山市北区南方3丁目10番40号
TEL (086) 223-7450
FAX (086) 221-0302
振込 岡山 01250-6-6418
ホームページ www.chosenji.net

長泉寺だより 第355号



大切な人を失うと、どうしても喪失感に苛まれる。まるで心に穴が開いたかのように、ふとした時に涙が溢れ、力が抜ける。「時間が一番の薬」などと言われても、放っておくだけでは心身は疲れ、場合によっては病をも患う。

そんな喪失感に対して、世間では様々な「対処法」が奨励されている。趣味を楽しむとか誰かに話を聞いてもらうとか、それでも駄目なら専門家によるカウンセリングも有効だとされる。

その意味では、葬儀や法事といった仏事も良い対処法であろう。家族や親族、友人らが集うことで、癒しを得たり励みをもたらしたりと、何かとポジティブの要素が多い。残された者たちとの絆やその大切さを

喪失感

確認することで、人はまた前進しようと思えるのである。

ただし、葬儀も法事もそれが目的というわけではない。それは仏事を行うことの側面であって、実に尊いことではあるけれども、仏事本来の目的は亡者も遺族も皆が「成仏」（或は「往生」）するところにある。喪失感に關して言えば、仏事は対処法ではなく「解決法」と言うべきものである。

ひともし

もしも今、あなたが喪失感を抱いているのなら、様々な対処法ももちろん良いのだが、成仏という解決法を最優先にされたい。亡者も自身も、伴に成仏道を歩むことで、苦の本質を知り、故にそれを滅することが唯一可能となるのである。（龍）

12月6日(土)午前7時 長泉寺出発

【旅程】長泉寺出発 7:00 === 出雲大社参拝～昼食～ 国宝「松江城」・塩見縄手(松江市)など === 長泉寺到着 19:00 頃予定

「神在祭」とは、一年に一度全国の八百万の神様が出雲にお集いなされるにつき、出雲大社で奉修されるお祭りです。杖心会は今回、同祭最終日(旧暦 10月17日:本年は12月6日となります)に出雲大社へ参拝します。

どなたでもご参加いただけますので、ぜひ一緒しましょう。

参加費 13,000円/大人一人 (中学生以下 4,000円)

別紙案内・申込書をご参照下さい

出雲大社

神在祭最終日に行く

長泉寺杖心会主催
檀信徒 日帰りバス巡礼

参拝の旅



白須賀観音夏まつり

七月十二日、「白須賀観音夏まつり」を奉修しました。檀信皆様より多大なるお力添えを賜りましたおかげで、昨年を上



まわる約一、三〇〇名もの方々にご参拝いただき、大変賑やかなる祭となりました。

当祭は、宝永の大地震（一七〇七）において池田綱政公を

救ったと伝わる白須賀観音を本尊に、一週間にわたって「七日千手法」を奉修し、檀信皆様様の除災招福を祈願する法会を行うもので、その結願に際して「夏まつり」を開催しております。

境内には十二の屋台が出店するほ

か、ステージでは長泉寺合唱団ナーガ、歌のお兄さん「あおにい」、書道家「梨乃」、うらじや連「四季」、松原徹（敬称略）の五組が出演し大変盛り上がる場所となりました。

協賛企業各位より景品提供をいただいた「お楽しみ抽選会」も大盛況で、子どもの部特賞として株式会社グロップ様よりご提供いただいたフア入りユニフォームを紹介

した際には、子どもたちから大歓声上がるほどでした。

檀信皆様様をはじめ

め、地域の方々、特に子どもたちにとっては夏の楽しい思い出になったでしょうし、願わくはそれが未来の岡山、地域の



書道家・梨乃さんによる書道パフォーマンスの様子

護持につながればと存じます。

そしてそれらすべてが、多くの檀信皆様様より協賛金を頂戴し（次頁にご芳名掲載）、さらには各企業・団体様よりご協力、ご協賛いただきましたおかげでございます。ここに心より厚く御礼申し上げます。

有り難うございました。

白須賀観音夏まつり

協賛者(芳名)

順不同 敬称略

福原貞子 丸山幸男 村田信子
 伊山義晴 浅野信彦 井上正美
 小川孝雄 山下弘子 木下一男
 三宅茂子 伊賀禮子 杉山花子
 穂田哲也 沖田武司 前原肇
 浮田恭弘 田中建治 時吉正志
 中川美代子 万代弘 浜本忠義
 清久茂美 西村弥千代 谷貞治
 浮田當枝 清水恭子 中岡光夫
 仲田知行 草地幸子 杉山直樹
 富田英行 川合愛子 鷺尾みゆき
 奥植恵子 稲田公子 中村希典
 小林閑子 宮本伸一 源根三佐子
 中塚勝之 水畑孝昭 定清勇
 西方邦春 山田芳子 伊達浩子
 落合かおり 松田恭子 酒井勉
 福光司郎 豊田實 中村久美子
 速水睦枝 高田孝治 三宅隆士
 町田侃 小西武、晴子 山本弘敏
 小野智久 笹山善男 重藤美代子
 湯之上良光 英則幸 信部淳子
 加藤知子 小林志保子 福池忠重

奥田千鶴子 内藤浩介 高田聖三
 有松達朗 津田千代美 奥昭恵
 原田晴生 玖村勝 浮田浩自
 田中強 山田紀香 難波治子
 武元幸子 石伊貴志子 土松良一
 岡千代子 四宮満子 福見緑
 フラワーシヨップ片山 藤原功
 近藤正一 高杉泰彦 桂木愛子
 内藤剛志 田邊善治 妹尾政典
 丸山惣一 有松絹子 有松啓介
 村松義伸 矢吹哲男 佐藤恭子
 金森裕明 金森啓子 長江志満子
 渡邊秀明 家守徑子 三宅恒夫
 間健一 北川喜信 三宅信好
 石井司朗 安田純三 多田章利
 川上節夫 有松正彦 人見和幸
 寺村昭子 丸山順恵 真野文女
 工藤恭子 福本伸一 原田清子
 三宅博文 上村達也 大西緑
 田中幸治 中塚房子 石村学
 香川和道 蛭田利夫 小原泰
 小林幸治、賢治 谷佐田正人
 高村敏昭 狩野毅 秋庭隆志
 山木奈美 萱原重子 西尾新一
 伊藤圭子 中西勝広 西山由美
 岩見徹 谷口悦朗 嘉数英美

奥津巨 二階堂雅美 川崎渡
 野村和江 光元潤子 浦上洋
 柿碧 (株)池田動物園 小原洋美
 丸山貴子 坪和秀明 太田晏培
 長畑珣子 久住桂子 浅尾むつ眸
 布野貢 下石八重子 久保剛一
 早川文尋 表谷久美子 西田幸子
 石原緞吾 松井三平 岡田陽一
 有松和夫 松井千明 泉晃子
 中川潤二 ほか匿名希望者三名

特別御供 池田厚子様

【お楽しみ抽選会景品提供】

- (株)GROP様
- (株)池田動物園様
- (株)中原三法堂浜店様
- (株)肉のクマザワ様
- 割烹かどや様
- 備前味噌醤油株式会社様
- (株)ベネッセホールディングス様
- (株)トマト銀行様
- フラワーシヨップ片山様

【協力企業・団体】

- (株)池田動物園様
- NPO法人音楽の砦様
- 南方中道長泉寺町内会様
- あいさか歯科医院様
- サンヨー薬局南方店様
- (株)南方ホールディングス様
- 医療法人南方クリニック様

いただいたご協力に心より感謝を申し上げます 合掌

夏まつり実行委員会

出店屋台

- 酒シヨップ山本 南方カフェ
- 九郎の途上 レストラン Saborosa
- パトラッシュB.T.W. トコトコ商店
- 南方中道長泉寺町内会 Rilie
- 酵素玄米MOJIRO グレンデルの釜屋
- やきや Kawazu Brewing

長泉寺合唱団ナーガ

ハートフルコンサート

六月二十九日、長泉寺合唱団ナーガは「岡山空襲八十年忌」並びに「結成十周年」を記念して表題のコンサートを開催。会場となった本堂には、満員となる九十名の方々にご来場いただきました。

岡山空襲八十年忌をテーマに



した第一部では、ナーガの歌声

とともにスライドで空襲以前、並びに以後の岡山市街地写真をご覧いただき、空襲で失ったものとそれから八十年の歩みをかみしめながら追悼の思いを深めていただきました。（写真提供協力：岡山県立記録資料館様 岡山空襲展示室様 六高記念館様 渡辺泰多様）

結成十周年を記念した第二部

では、ナーガが思入れのある曲や来場者皆様と一緒に歌える曲をセレクトし、楽しく心豊かな時間を過ごすことが出来ました。

指揮の佐々木英代先生にご指導を仰ぎながら、当コンサートに向けて入念に練習と準備をしてきましたので、無事盛況に終わることができ大変嬉しく感じている次第です。

ご来場いただきました皆様には、ありがとうございました。

施餓鬼法会

毎年恒例の施餓鬼法会は、近年の八月があまりにも暑いので、本年より当山本堂で行うことになりました。ついでに八月二十一日、毎月恒例の弘法大師縁日法会を十時より奉修した後、ご参拝の皆様と東方に向かって施餓鬼法会を開筵。略施餓鬼作法を奉修するとともに、お申込みをいただいた卒塔婆に流水加持を行い、檀信徒精霊に回向を捧げました。



檀信徒合同盆供養



八月十五日、孟蘭盆会に際しまして「檀信徒合同孟蘭盆総供養法会」を玉佛堂にて奉修しました（参拝二十名）。

初盆を迎えられたお方や、盆参拝時にお留守をされていたお方、樂陽廟で永代供養をされているお方など、ご縁ある皆様にご参拝いただき、ともに各家精霊に回向を捧げました。

奉納

この度、檀徒である渡部新平様（北区弓之町）より、四国霊場の本尊御影額を奉納いただきました。御志に厚く御礼を申し上げます。

なお、同額は樂陽廟一階に掲げておりますのでご拝見くださいませ。



出家得度式



龍門住職の三男真人（算八歳）は、八月二十日に出家得度式を迎え、名譽住職の光研権大僧正戒師のもと、法縁深い僧衆や総代らに見守られる中、晴れて新発意（仏弟子）と成ることができました。僧名は「龍藏」です。

檀信徒皆様には成長を見守っていただければ幸いです。

寺子屋文化講座

当山で隔月開催している「寺子屋文化講座」は七月二十二日、第五十二回目として岡山民俗学会の平松典晃さんにお越しいただき、備前四十八ヶ寺を創建したと伝わる「報恩大師の伝承と信仰」についてお話いただきました（参加約二十名）。

また九月十二日には第五十三回目を開催し、岡山市埋蔵文化センターより水川慶紀さんにお越しいただき、備前地域の古代寺院の成立と展開について考古学的視点よりお話いただきました（参加約三十五名）。



ご詠歌巡礼



当山ご詠歌会は、恒例の「ご詠歌巡礼」を七月二十四日に開催し、赤磐市奥吉原にある「靈山寺権現社」、和気町にある天台宗元恩寺様、和気富士の中腹にある和気観音堂、そして和気清麻呂公を祀る和気神社様を巡りました。

また九月十六日には、素盞鳴尊が八岐大蛇を斬ったと伝わる剣が納められた石上布都魂神社様（赤磐市石上）、並びに同社神宮寺である妙光寺様を参拝。いずれも備前岡山の信仰史に触れながらご詠歌を奉納し、楽しい旅となりました。

これまで四回にわたり神仏習合を連載してきましたが、最終回となる今回は「神仏分離」についてのお話です。

中近世の神道の展開

これまでに見てきた通り、仏教が我が国に伝来した六世紀以降、カミとホトケは密接に習合してきました。

他方で平安末期から鎌倉初期にかけて、伊勢において「伊勢神道」が興り、神道独自の教説が誕生しました。それは社僧が神祇を奉祀するものとは異なり、神官自らが純粹なる神道を追求するというものです。伊勢神道は南北朝時代、伊勢豊受大神宮禰宜ねぎである渡会わたらい家行いえゆき（一二五六〜一三五一）によって大成されます。

室町後期になると、伊勢神道の影響を受ける形で「吉田神道」が興ります。京都神楽岡・吉田



京都神楽岡「吉田神社」

神社の社家吉田兼俱かねと（一四三五〜一五一一）は、神道独自の教説を重視する伊勢神道に、儒教や道教、さらには密教的な実践行も取り入れ、その宗教力を開花させます。以来、江戸幕末頃まで、吉田家は全国の神社・神職の任免権を保持し、神道界の統括者として君臨しました。

江戸時代になると、学問の中心であった儒学が隆盛するとともに、我が国の古典研究も盛んになりました。先ず、摂津国の真言僧・契沖けいちゆう（一六四〇〜一七〇一）が、水戸藩主・徳川光

圀みつくに（光圀・一六二八〜一七〇一）より委嘱され『万葉集』の注釈書『万葉代匠記』を記し、国学発展の口火を切ります。

契沖の影響を受け登場した本居宣長のりなが（一七三〇〜一八一）は、『古事記』や『源氏物語』の注釈書を記し、外来文化（からごころ）よりも我が国古来の文化（やまとごころ）へ立ち返ることを提唱。

さらに宣長の著作に心酔した平田篤胤あつたね（一七七六〜一八四三）は、宣長国学に独自の研究を加え、仏教や儒教、さらには吉田神道をも排除した「復古神道神学」を確立。篤胤の門人は四千人を超え、その潮流は国学を尊王攘夷論にまで押し上げるところとなりました。

近世の寺社整理

国学の発展に伴い、寺社もその影響を受けていきます。

寛文五年（一六六五）、水戸

藩主・徳川光圀は藩内の寺社改革のため、神仏分離政策を実行。それは他の藩にも影響を与え、岡山藩・池田光政（一六〇九〜一六八二）も同様の政策を取ります。すなわち、規模が小さく、その実体も怪しげな寺院を棄却し、僧侶は還俗処分。神社に対しても、民衆が素朴な願い事をする小規模のものは「淫祠いんじ」として整理処分したのです。

江戸初期の寺社整理によって淘汰された神社は、水戸藩で寺院一千以上（四十六％）、神社三千以上、岡山藩では寺院約六百（五八％）、神社約一万（九五％）と記録されています。

さらに後の水戸藩九代・徳川斉昭なりあき（一八〇〇〜一八六〇）は、海防軍備増強を目的として寺院の梵鐘や仏像を没収し、約二百の寺院を廃寺にしました。斉昭は後に罪に問われることにもなりましたが、黒船が駿河に来航し、西欧列強への対処が求めら

れた江戸後期の若手政治家には大きな刺激ともなりました。

神仏分離令と廃仏毀釈

そして明治元年（一八六八）三月、王政復古をめざす明治新政府は、いわゆる「神仏分離（判然）令」を布告します。

そこには、国家の諸事から仏教を排し、すべて神道形式で行うこと（祭政一致）とし、神職は皆、神祇官（公務員）に付属すること、また社僧たちは還俗し、神宮寺の別当（住職）は神職へ転身して神社で働くこと、さらには神社から仏教に関する一切のもの（「権現」などの呼称、鰐口や梵鐘などの法具類）を排除するといったことが明記されており、明治政府の強い意向がうかがえます。「神と仏を分離（判然）させる」という名目ではありますが、この政令が全国各地で過剰な仏教弾圧をもたらしてしまっています。

それが最も激しかったのが薩摩藩です。なんと藩内すべての寺院（一〇六六ヶ寺）が廃寺となり、僧侶も全員（二、九六四人）が還俗させられたのです。その他、高知、長野、伊勢などの地方においても、激しい弾圧が繰り広げられました。

都も同様で、古都奈良では興福寺や東大寺といった大寺院で伽藍や宝物類が棄却され、僧侶の多くが還俗処分。京都では神仏を伴に祀っていた北野天満宮、祇園感神院（現・八坂神社）、石清水八幡宮などから仏教色が排され、その他多くの寺院が領地を没収されました。新都東京では、増上寺の境内半分が芝公園となり、寛永寺境内のほとんどが上野公園となりました。そのような「廃仏毀釈」は、全国各地の寺院を廃寺に追い込み、江戸期に約九万を数えた寺



石清水八幡宮に残る石灯籠
台座が仏式の蓮華形になっている

院も明治九年（一八七六）には半数の四万五千ヶ寺にまで減少しています。明治政府による神仏分離令、並びにそれをきっかけとする廃仏毀釈によって、日本の景色は大きく変わってしまったのです。

仏教の復活 むすび

以上が我が国における神仏分離の概略です。特に廃仏毀釈は、日本仏教にとって史上最も過酷な出来事だったと言えます。

しかしながら、注目すべきは廃仏毀釈はわずか数年で収束し、仏教は瞬く間に復活を遂げたということです。それは、当時の仏教界の懸命なる努力も当然大

きいですが、そもそも葬儀も墓も、寺院無しで一体どうするのか？人々はやはりホトケを必要としたのです。カミとホトケが揃っていないと成り立たないのが我が国の精神文化であって、まさに神仏は切っても切れない関係性だと言えます。

前号までもご紹介した通り、「神仏習合」は分離政策や廃仏毀釈といった弾圧を受けてもなお、その精神を絶やすことはありませんでした。神社と寺院、そしてカミとホトケは、相互に役割を補い合いながら今も私たち日本人の心を支え続けているのです。

参考：『わかりやすい神道の歴史』神社本庁総合研究所、『吉田神道の四百年』井上智勝、『本居宣長〜「もののはれ」と「日本」の発見〜』先崎彰容、『本居宣長〜文学と思想の巨人〜』田中康二、『平田篤胤〜交響する死者・生者・神々〜』吉田麻子、『廃仏毀釈〜寺院・仏像破壊の真実〜』畑中章宏、『仏教抹殺〜なぜ明治維新は寺院を破壊したのか〜』鶴飼秀徳

令和 8 年正月 8 日

「客殿修繕奉讃会(仮称)」が発足します

昭和 36 年に建設された現在の木造客殿の老朽化に伴い、長泉寺檀信徒総代会は令和 8 年正月 8 日に「客殿修繕奉讃会」を発足し、来る令和 11 年「長泉寺中興 70 周年」に向けて客殿の修繕事業を進めていく所存です。

現在、総代および檀信徒中の専門家の方々と「客殿修繕事業準備委員会」を適宜開催しながら、次世代の檀信徒へ安心安全なる客殿を継承すべく、その事業内容の精査を行っております。

つきましては、当事業をお見守りいただくとともに、当奉讃会発足の際には、何卒ご協力を賜りますようお願いいたします。

長泉寺檀信徒総代会

◆◆◆◆◆ 長泉寺文化教室 ◆◆◆◆◆

- 長泉寺合唱団ナーガ 第 2, 3, 4 月曜 10 時～12 時
- 金剛流御詠歌会 毎週火曜 10 時～12 時
- 御室流華道教室 毎月 1 回
- 写経会 毎月 8 日、21 日 10 時
- 書の会 毎月 1 回
- 将棋クラブ 毎月 1 回
- 寺子屋文化講座 隔月 1 回

◆◆◆◆◆ お気軽にお問い合わせください ◆◆◆◆◆

ご縁のある御方には、お繰り合わせご参拝下さい。

春秋祭

永代供養「樂陽廟」合同追悼法会

11月21日(金) 10時〜於 玉佛堂

霜月大師ご縁日

- 9:00 大師縁日法会
- 11:00 安らぎの塔
平和祈願法会

併修「長泉寺文化祭」

将棋クラブ

毎月一回 客殿で開催中 参加無料

■89回目
10月26日(日) 13:30-16:00

■90回目
11月24日(月祝) 13:30-16:00

いつも集まったメンバーで楽しくやっています。どなたでもお気軽にご参加ください。



奉納 大のぼり幡のご案内
約一年半にわたって境内に掲げさせて
いただく白い「大のぼり幡」の施主様を
募集しています
施主をお勤めくださるお方には
今月末までに当山へご連絡くださいませ
金三萬円也／幡一基

長泉寺の公式ホームページをぜひご活用下さい

長泉寺 南方

検索

住職のブログ、月行事日程、文化教室のご案内など長泉寺の様々な情報をご覧になれます